磐城新聞

（二十日夕刊）

休刊 大祭日 第一第三日曜
定價 一部二錢 一ヶ月六十錢 郵稅十五錢
廣告料 壹行六十錢 指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 蘆沼龍輔
福島縣平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社 電話五六四番

「誘惑に克つ心」を讀みて（下）

仲間町 横山充雄

昔は封建制度の時代には子を生ざる女性は即ち家を去る、とされてゐました、醫學の進歩せざる爲めもあつたらうが子を産ざるは女性の罪とばかり思つてゐた。

昔は世襲の爲めもあつたために早く世繼を定めなければならなかつたゝめに女性は生殖が目的であり子を殖す器の如く男性の附屬物の如く看られ何事も男性には從、三つ手をつかへて玄關に夫の往き來を迎へるが如きであつた。併し日進月歩、明治維新となり外國の文明を急速に取り入れ駕籠の時代より自動車の時代へ、それは肉眼に映ずる物質界に止らず眼に見ず手に觸れざる精神界にも、文藝思想にも一層著しかつたが二百年の永い眠りから醒された我が國と共に國民の精神は新なる世界思想の衝擊によつて男女共に覺る處があつた

その中でも今迄二千有餘年、服從的生活をして來た女性が叫びは偉入でありました。明治にその基礎を固め大正に至りて基礎の磐石の上に立つて叫びました。

婦人の境遇より覺めて、婦人も人間である人間である以上人間（人格）として取扱はれたいとの要求の下に自覺的活動せんとする叫び又は社會に於ける婦人の地位が如何にすべきかの叫びでありました。

そして女性の教育的解放職業的解放法政府會的解放は叫れました。過去の女性・境遇は米國人に對する黒ぬ人、南北米國の四百圓の奴隷の如きでありました。それで近代女性の叫びは奴隷解放をなせりリンカーンの偉業の如きである、

乍然、リンカーンの奴隷解放は天下の叫び全人類の幸福のためでありかくならなければならぬ理からでも。だが近代日本女性の叫びは應々に誤つてゐるはあるまいか。生理的にも女性は弱き者將た又、娼婦母婦の如き型を有する女性である、女性はいかにしても男性に頼らなければなるまい、然し、男女夫婦となら ば一萬一夫なる者、頼らなければならぬ夫が力なき場合に夫に代つて此れを養はなければならない、小說火刑のヒロインりん子の如くであられればならぬ。

易經に「乾道男を成し、坤道女を成す」とある、故に原則として男の本体を剛となし作用を健となす、即ち剛健。

女性の本体及び作用は柔順である、若し此の原則に反して女が剛で勇しく雄々しければこれ女丈夫と言ふ一種の變態的女性となり女性の中正を失つて悖逆となるのであります。

常識からも生理的から見ても學理からも見ても男女同權、女性獨立は不可能ではあるまいか、

若し男女同權を與へたならば常に家庭にも國内にも再び勤王佐幕の如き有樣を示するではありますまいか それに天に日輪二つなく地に二王無しの大道の下に起因するのである。

若し家庭に二主あらば（男女同權）必ず亂れるであろう。

こゝにおいて女性に生れた不幸と諦めて、論は男女同等に、男性は主、女性は從としたならば何等の惱みも起ることなく男女各々の本分を貫一すゝ事が出來得るではあるまいか

若き女性よ、我が身を看て、今しばし黙せよ！

男性よ起て、第二の南洲龍馬出でよ。（終り）

明日の吉凶

舊曆四月二十三日　新曆五月二十一日

▲一白 考へ過ぎて蹉に陷り實情に疎ざり行く日南と北と乙が吉▲二黑 器用に任せ余分な小策をすれば失敗すべし東と南と辛と吉▲三碧 今日終りを告げざる事はよつべからざる日丙と丁と乙が吉▲四綠 目上に謀り長上を聞きて獨斷を戒むべき日巽と乾と壬が吉▲五黃 遣り繰工風事は損し る恐あり自重企せ東と南と辛が吉▲六白 穩健に進めば大吉浮薄の事には大凶なる日巽と辛と壬が吉▲七赤 企つる事小なるも追々大たるものと成るべし巽と壬辛が吉▲八白 勞多く功少きも後日の爲めと勵むべきこと東と南と北が吉▲九紫 苦を去り何となく氣の晴れと働ける日

戲曲 長唄師匠の死（一幕）

平町 高野牧夫

時　昭和五年五月の或日

場所　福島縣の或る都市の一部

人物　師匠　〇〇六也壽　二十七歲（資產家の令孃で病身故獨身の美貌の處女）

正男　（快活な美貌の若者）

利子　（臆病な理性の強い女）

其の他に弟子數名

舞臺　上手より三分の二程御書院風の家屋建（舞臺前面に廊下）若い女師匠の好みらしい壁に油繪の風景畫と靜物畫二、三點がかけられてゐる。其の他總てに女性らしく裝飾された稽古室——

（一）

幕開く。——利子初若い女弟子等五、六名ラジオに聞き惚れてゐる。皆興奮して元氣さうに顏を赤くして居る。

——間——

中で一番年若らしい娘Aが——いでもぢ〳〵して居たが——

娘A　傳明、てほんとにこんな聲なのかしら？

（突然悲觀した樣な聲を出したので、一同どつと笑ふ。暫くラジオは騷音でうち消されてゐる）

娘A（眞赤になつたが、餘りに皆が笑ふので、ぽかんとして無言——

娘B（騷へて居る人達を靜める樣に）

「傳明許りぢやないわ。田中絹代だつてさうぢやないの——妾、田中つてもつとスキートな聲の所有者かともつてたわ！」

娘C（Bを反駁する樣に）顏がいゝからつて——

娘B（Cの話を奪ふ樣に）「顏がいゝからつて！！」そう云ふことを云つてゐるんぢやないわ。妾は田中さんのスクリーンの上での演技と、顏と、そしてそれ等から感銘づけられる純情と、甘さ！——さうした印象を基礎として云つてゐるんだわ、當然のこと、その聲も」

その時「御免なさい」と云つて靜かに格子戸の開く音、「いらつしやいませ」と云ふ女中の聲、續えて廊下を皆の居る部屋に近づいて來る足音——。皆靜まり返つて聞耳をたてゝゐる「御免なさい」正面の襖の開く音。

正男（廿二歲の快活で美貌若者）悠つくり入つて來る。

利子を除へた者一勢に振り返つて見る

利子一寸彼を見てすぐ目をふせる

正男（皆に挨拶して利子の與向の場所に座る）

正男「皆さん、早いですね（話の切れることを恐れる樣に）あれは未だですか？」

娘C　いゝえ、この次のよ

正男（時計を一寸見て）何時からですか

娘B　八時半よ。未だ餘程あるわ。

——間——

正男　映畫劇ですね、（獨言の樣に）よく入つてきたあ——（利子の方を向いて）何處の俳優ですか？

（利子答へない）

大勢（一皆に）松竹の山の凱歌ですわ！

娘B　傳明の聲よ。

娘C　隨分ドラ聲よ。これではAさんが悲觀するのも無理がないわ——

一同まだどつと爆笑する

A赤くなつて逃げ出さうとするが娘二、三袂を握つて放さない

——暫く間——

娘B（立つて）お師匠さんを呼んで來るは

娘AC其他二、三……「妾も一緒に行くわ……」

つゝましやかな足音が彼方へ消ゆる樣にながながと續ねてゐる。

殘つた娘達も正男と利子を見て、氣まづ相に……

「妾等も迎へに行かないと悪いから行つて見るわ」

……後、正男と利子丈け殘つて居る。

講談 幕末奇傑 高山彥九郎

(140) 中西洋々作　市施長春畫

同志と語る（七）

道々歩き乍ら、助六は、語りました

「旦那さま、こつちから申し上げるのは少しなんでムいますが、あつしはもうあれつきりすつかり心を入れかへましたんで……今日此頃ぢや親父なんかも、ようそれ迄になつたもんだつて感心してゐる程なんでムいます。」

「ふむさうか」彥九郎もその誠心がようく分りましたか嬉しさうに微笑んで

「わしもそれをきいて、嬉しいことに思ふ。どうか、その心を忘れずに、いつまでも正しい道を歩いて行つてくれよ」

「へい、ありがたうムいます」さういつてはまた歩みを運んでゆきましたが

「あゝ、さう〳〵」ふいに思ひ出したように助六は云ひました

「旦那さま、實は、あつしの所にこの二三日前から泊つてゐるお客人がありますんで！それがどうやら旦那さまと同じ勤王のお武家さまなんでムいますが……」

「ほほた、それは珍らしいことを聞く」彥九郎も思はず引きつけられて

「して、何といはるゝ御仁ぢやな」と聞きかへしました

「へえ、なんでムいます。播州の御人で唐崎様とか仰しやいますので……三十四五の立派な御侍さまでムいます」

「はゝあ、唐崎殿と喃」

「へえ」

「して、また、なんとておなた所に泊て居らるゝのぢやな」

「へえ、それが何でムいます。三日前のことでムいました。夜遲く、たのむ〳〵と私どもの表戸をたゝかれる御人がムいますので出て、今頃誰だらうと思つて出てみますと、病ひに惱しむものぢや、一夜の宿をお願ひ申すとかう仰しやつて大變お苦しさうな、その体をお運びなさりましたんで……わつしもそれはさぞお苦しみだらうとかう思ひまして、お泊め申したんでムいますが、それが、その今申し上げました唐崎樣でムいました」

「ふゝうむ」彥九郎は、うなづいて

「それは、よいことを致された。してまだお体は直られぬのかな」

「いえ、もう、明日、明後日のうちにはまた廻遊にのぼられる程になつて居られますので」

「ふゝむ、左樣か」

「あ、こゝが私の家でムいます」ふいに助六がさういつて示しましたところは、大きな米屋で伊勢屋の稱號も古びた暖簾の老舖でした

「さあ、どうぞお通り下さいまし」

「いや、辱く」

「おい、新どん」

助六は小僧の一人を呼んで

「お前、お客さまへ洗足をもつておいで」かういつて命じます

手代の新吉が運んで來た水で足を洗つて上に上るを改めて助六の父でこの家の主人の助兵衛が挨拶に出ました。

「倅が、お陰さまを蒙りまして……」

さういふ口付にも、町人とは云ひ乍ら大家の主人、殊には伊勢の神域近く人となつた人のみやびに美しさが見えます。かうした家に何不自由なく育つた身がどうして掏摸などになつたかと怪しまれる位です。父助兵衛の云ふ所では助六にとつて盜むといふことが一つの快樂であつたらしいのです

ハムよりうまい
鹽豚販賣
田町 三二三屋

廣告
痔の最高内服藥 ダイサン錠
鼻のクスリ チクノール錠
平町五丁目角 山野邊藥局

平町南町
上田醫院
電話一二九番

平町紺屋町
吉田眼科病院
募集。看護婦（資格者）

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
性病 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

貸切自動車の御用命は
新型で乘心地よい
昭和タクシーへ
また三〇年型新セダン型入荷致します
平驛前
電話三四三番 サシミ

江戸前 食堂
御試食なりましたか
錦水の 鳥料理 純日本料理
一度おためし下さい……
出前は迅速
錦水
平町田町末廣東隣
電話四二一 八〇三番

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

內臟外科 整形外科 產科 婦人科
醫學博士 藤本順
院長 木村寅次郎
平町新川町 電話一六四番
木村病院

最新流行
各國時計 ユビワ 眼鏡類
特安賣
金時堂
高橋時計店
平町土橋通り

特賣!!
たひら正宗 福島縣清酒品評會一等賞受領
同 花春 優等賞受領
醬油釀造元
山崎合名會社
電話一〇番
鹽屋

肺結核、肋膜炎、感冒咳嗽に
肺炎カタル、氣管支喘息に
高速度特效藥
ホシアンチツベルクケン
大 五圓 二五日分
中 三圓 十二日分
小 一圓五十錢 五日分
淋病消渇にホシゴノール
定價一三圓 一圓六十錢 一圓也
平町三丁目（平郵便局隣）
ホシチエーンストア
電話四二九番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅鐵
（久）釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は（久）の生命なり

清世界 醸造元（吉）清水屋
石城小名濱町
銘酒 各炭礦御用達
小野晋平
電話六番

不景氣も道理の筈 掛時計一個が僅か十九錢
見積り價格の半分に充たぬ 滯納競賣の奇現象

縣税滯納に對し差押へをなし競賣處分に附したが入札者がないので當局も善後處置に窮してゐると云ふ、世の不況を如實に語る事實……

石城郡北平町外十六ケ町村の縣税滯納者は五百七十七件金額一萬二千餘圓に達してゐるので縣當局では右に對し差押へをなし昨十九日臨時事務所に於て公入札に附することゝなつた、而して右の内競賣の前日たる十八日迄に縣支金庫に直接納入したもの六千八百餘圓、競賣當日特別便宜納入したもの一千三百餘圓にして殘餘二百五十三件、六千百圓は愈々公入札を執行れるしたところ右競賣物件の内入札の上當局の競賣價格と一致し落札したものは好間村上好間鈴木太一(假名)の障子六枚一組三圓と云ふただ一件のみで其の他は全部見込價格に對する入札金額が半分にも達せず如何に當局が焦慮しても落札しない

即ち時價百二十圓もする最高級の蓄音機が一圓九十八錢、自轉車一臺が一圓三十五錢、柱掛時計が十九錢

平上水道起債 今度こそ認可
書類は愈々地方局へ 工費は卅三萬圓

平町の上水道擴張計畫は內務省でも相當好意を寄せ始めの設計通り三十七萬圓で設備することを諒解し、起債の方は本問題取つてゐるが實施設計の方は既に認可することに決定したところ過般縣當局では地元の

反對意見に動かされたものか總額三十七萬を三十三萬四千六百五十圓に減額せしめるかくそれだけ實止し、認可されたいと申請して來たので再び起案をなすことになつたから今後尚相當の日子を要することゝなつた譯である一方起債の方は、やはり前回と同樣總額廿萬である工事減額されても起債以外に尚十三萬餘圓を要するのであつて町の計畫ではこの內七萬二千圓を縣の補助に求め殘餘の六萬圓を國庫補助によつて埋合することになつてゐるところが水道の新設ならば國庫は補助してゐるが擴張に對しては大都市でない限りこれまで補助した例がないので內務省ではこの財政計畫に不滿を懷き別個の方法はないかと目下上京中の遠藤助役に編成替を要求したところ氏は町有地を賣却して五萬圓をねん出すると云ふことに變更して漸く諒解を得たが尚縣の補助七萬二千圓にしたところでまだ豫算に計上してゐる譯でないから不確實であるとして過日縣當局に照會を發し縣から將來補助するといふ言明を得てやうやく進行することゝなつた、これで本問題も大體片づいたようだから近く書類を地方局長の手許へ回付され認可に至るだろう

早慶野球戰勝敗豫想投票
應募七千二百十四枚に達す 發表は明後二十二日夕刻紙上

平町三丁目大谷時計病院が主催した早慶野球戰の勝敗豫想投票は去る十三日夕刊より本紙上に發表するや地方の野球ファンの人氣を煽り立て應募のハガキは一日二回に開函する本社の私書函から溢れ出るほどの多數に達し締切りの十七日正午までに到着したもの七千二百十四枚の多きに達した而して今廿日發表の豫定のところ今尚は應募ハガキの整理中である爲め二十二日夕刊紙上並に大谷時計病院ウエンドーに發表することゝなつた

上下小川の紛糾
家調選擧の禍

石城郡上下小川組合村では今回の家屋税調査選擧に當り上下小川が妥協し各三名の候補者を立て定員六名を無競爭で當選せしむる筈であつたところ突然下小川では協定を破り四名を擁立した結果皮肉にも協定を破つた下小川が四名全部當選し協定に應じた上小川は一名落選を見たので目下紛糾して居るがこの上は當選者である前村長下小川鐵井發氏を第二次委員に擧げることによつて緩和するの外ないからと言はれてゐる

公娼は何故惡い
瀬川八十雄

今日世界のいづれを訪ねても制度として公娼が認められてゐる國はいやしくも文明國といはれてゐる國にはひとつもありません。支那に於てすら最近南京及び奉天に於てこれが廢止を見た位です。然るに我が國に於ては今期議會にも建議案として廢娼案が提出されて居りましたが、これが實現は仲々見透しがつかぬ狀態であります。世界の何處にも存在しない非人道的なこの制度がひとり我が國にのみ殘存するといふ事はこれが國辱でなくて何でありませう。然らば何故に公娼制度はいけないかといふと一体世界のいづれの國なるかを問はず賣淫の歷史は古く、これを掃蕩することは現在ではありますが仲々困難に屬する事でございます。從つて今日公娼制度の存在しない國に於きましても私娼の跋扈して居りまして、これがよく廢娼反對論者の論據となるのでございまして即ち娼妓廢止したところで私娼になる丈けで只名が變るのみ、實質的には毫も變りはないではないか?、しかも公娼なら、これを取締れるが私しやうに到つては取締は困難ではないかなど、ろが、私共に云はせますれば實質問題はどうでもいゝのでございます。少し極端ですが、私をして云はしむれば今日の公しやうがその廢止によつて全部私しやうになつたところでその事自良は毫も憂ふに足りないと思ふのです。それよりは國家がかうした醜惡に滿ちたものを營業と認め、公認してゐることの國民に及ぼす精神影響を重大視しなければならないのです。賣淫が如何に人類と共に發達したものだとは云へ、これは公然と行はれるべきものではありません。だから制度として之れを公認してゐる事がいけないのです。それならばしやうなら取締れるが私しやうでは取締れないといふ反對論者の意見は私しやうに於ける事實を知らぬもの、成ひはそれを強ひて隱蔽するものゝ言葉です。事實に於て今日の公しやうは決してよく取締られて居りはしないのです。取締れる筈がないのです。それは遊廓地附近の警察署へいつて見れば分りますが、そこには樓主などがやつて來ると、わざ〳〵椅子を出してやつたりなんか大變なものです。この一事を以てしても凡その想像はつくでございませう。それから張店、客引は禁せられてゐるところでございますが、それが吉原に於てさへ現在巧に行はれてゐるので、しかもそれは實に巧妙に寫眞を見てゐる客を誘ふのですが、若し警官が見えればすぐベルを鳴らすことになつてゐて警官の巡回等は少しも効を擧げ得ないやうになつてゐるのです。しやう妓取締はかくの如く決して行はれては居らないのですが、これを私しやうの場合はどうかといふと、私しやうか手の廻らないは別として少くとも風紀を紊す者はこれを處罰するに何拘束もないのです。公しやうなら取締れるが私しやうでは取締れないといふのは全然反對です。かく考へてくると如何なる方面から見るも公しやう制度の存置すべからざるものであることは何人にも肯へることであらうと存じます。

湯本事件に 禁錮と罰金
きのふの公判

石城郡湯本町の列車と自動車衝突事件第二回公判は十九日正午から平區裁判所公判廷に開かれ證人調べの後被告鐵道踏切監視小久四郎(三三)に禁錮六ケ月被告自動車運轉手高岡久(二四)に罰金百五十圓求刑あり午後四時閉廷したが判決言渡しは來る廿九日午前十時

二毛作品評會

平町外四ケ村(夏井、神谷、平窪、好間)の水田二毛作の立毛品評會は石城郡農會主催のもとに來る二十日より二十三日まで四日間現場に於て審査をなすと

平町の反物賊

平町材木町吳服店北川治平方に十九日午前二時頃勝手口から賊忍び入り現金數圓銘仙反物五十反價格約二百五十圓を窃取逃走し訴へにより平署で犯人嚴探中

平局集配人に不良分子
平署で警告

平郵便局の集配人中にたちの良くない不良化したものが居り過日平署が特別執行した不良狩にひつかゝつたものゝあるので平署ではその旨平局に內通し局としても今後は嚴重監視し不良行爲に及んだ者は片つ端しから嚴罰することになり過日の平署の不良狩にひつかゝつた集配人神谷村遠藤貞藏(二四假名)は最近つひに解雇されたが同局ではこれについて局內一般從業員に對し『最近局員中の風紀に關し新聞紙にも遠慮なく報導もありその筋からも嚴重な通牒あつたから各自は大いに注意されたい』と云ふ意味の示達をなした

四倉港が愈々縣費編入決定
鈴木、山崎、古川三縣議 運動漸く奏効す

石城郡四ツ倉港の縣費支辨港編入は昨年の通常縣會に縣から諮問され縣會は一ケ答申をなしたので縣では內務省に申請去る一月末自由港として指定認可されたのでその後調査中だつたが、十九日いよ〳〵縣費支辨港として編入することに決定した、近日縣報を以て告示發表される筈であるが四倉港が縣費支辨港となることは地方民は非常な熱望であり、石城郡選出の鈴木辰三郎、古川傳一、山崎吉平氏等の政友派縣會議員は地方の發展のためにこの實現運動をなして來たが昨年の縣會に於ては政友會の黨議に基いて知事に四倉港の縣費支辨の諮問案を提出する樣に陳述し遂に提案せしめた程で、地方民の熱願と縣議連の猛運動が奏功して今日四倉港が縣費支辨港として編入されるの喜びに接したものである

平窪村の請負師 佛壇の前に端座し獵銃で自殺
神經衰弱が原因で

平窪村大字下平窪字木諸業松本勇平(三七)は十九日午後十時頃自宅の佛壇より遂務の獵銃を取出し咽喉部を貫通して即死せる騷ぎを家人が發見屆出で平署高橋巡査部長檢視した、原因は兎角の噂するものもあるが極度の神經衰弱の結果らし

四倉町助役に 菅波氏再選
きのう決定す

四倉町助役問題に付きては菅波現助役再選派と改選派との二派にわかれ相當猛烈なる暗鬪をつゞけて來たこと既報したが昨新妻町長は現助役菅波氏を推薦したのに對し改選派も鳴りをしづめ滿場一致を以て同氏再選に決定した

勿來町長の彈劾
町民の輿論

數年來の平和を一朝に攪亂したものとし、町民彈劾の聲を高めてゐる勿來町は既報の如く超黨派的に後任町長の下馬評さへたてるに至つた狀態に町議間に內々策謀を開始された一方現町長が自發的に退職せぬ場合は正面より辭職勸告すべき意を整へつゝあり出發點が出發點だけ仲裁に入る者もなく湯本町長の失脚退身は餘儀なきものとなつた

小名濱港修築の起債九十三萬圓
きのう承認さる

小名濱築港について縣では國庫補助金の外に不足分を起債による事として九十三萬五千七百圓の起債許可を申請中であつたが內務省では十九日付起債を承認する事と決定し書類は同日局長の手許に回送された

平町有地處分
二三萬圓の財源に見積

平町の公有地調査は四月上旬に終了した鐵道以北に引續いて本通りから南町方面に調査の歩をすゝめてゐるが、現在の成績を見ると商店街の本町通りは鐵北に比し意外に多く町有地を侵してる者あり、しかもそれ等は相當智識階級の者であつて殊に一部を除く多くの者は異口同音に『祖先傳來の土地に對し今頃町有地云々は甚だ怪しからん』などゝ頑張りつゝあるので町當局では止むを得ず平町が北目町と稱してゐた明治初年時代に作製した町有地圖書を示して一々之れに當つてゐるが同調査は大体五年度で全部終了を見る筈でこれが終了の曉は町當局は少くとも二三萬圓位の財源を得るに至るものと吏員は語つてゐた

共同米販賣 安値

一俵九圓七十五錢

石城郡大浦村農業倉庫に於ける十五日の共同米販賣は四等米一俵九圓七十五錢であつた、之を前期に比すると十九錢安であるが一般からは高値を豫想されてゐたことゝて此の安値振りには全く以外としてゐた右に付いて平米穀檢査所員某氏は語る

十五日は丁度東京に於て定期が大ドタを生じたゝめそれに刺戟され安値を見るに至つたものであらう

濱三郡海兵
三十日平町集合

海軍志願兵中石城、相馬、雙葉三郡の入營兵は三十日午後五時までに平町役場へ到着翌卅一日午前七時同驛發橫須賀に行くことに決定

郵便が遲い
平町役場で困る

平郵便局では今回集配區域の大變更を行つたがその結果田町の町役場配達は午前十一時過ぎ十五丁目警察署團体事務所あたりは同十時過ぎ頃になるので官廳方面では非常に不便となりことに土曜日又は夏季は執務午前中限りの關係から不便甚だしくなるので私書函を設くべく交渉中であるがこれも直に設置出來ないので弱つて居る

時言

自轉車一臺が一圓三十五錢、掛時計が十九錢は餘り酷ど過ぎます

□

不景氣が此處まで來ても濱口さんは正氣にならないものだろうか

□

平上水道の起債認可今度こそ間違ひのない本當なそうで御座います

□

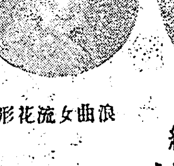
四倉町助役再選決定

再選するまでに一騷ぎは濟まされぬ處が町會議員の強みさ

藤沼醫院 平町紺屋町 電話五〇七番

初夏サロンの新裝
店內に新綠の氣分を集め アイスクリームを開始いたしました、ドーゾ御用命を……
(御一人前十錢)
田町 サロン 電話三五二番
サロンの公休は每月第三日曜

短期特別大興行
來る五月廿二日ヨリ 午後五時 花火合圖開場
米國再歸朝 浪曲女流之大權威者


浪曲女流橫綱 前田節子孃
浪曲女流花形 前田八重子
平町 聚樂館ニ於 (電話四七〇番)

新築落成
耳、鼻、咽喉科 氣管食道科(專門)
平町南町(舊診療所向電一七〇番)
大和田醫院 大和田郁司
自炊の便あり

無料檢眼 TOKIWAYA
皆樣の御眼にピツタリ合つた眼鏡は…… 専問醫師の檢眼で……
正確で工合よい時計は…… 是非當店にて……
平 壹 常盤屋時計店 電三三九

時計 貴金屬商 眼鏡類 蓄音器
平町五丁目 金光堂時計店 電話七三六
修理ハ早ク良ク仕リマス